新谷花菖蒲通販部

栽培者おすすめ

花しょうぶの育て方

特徴

ハナショウブは初夏、梅雨の中でも、ひときわ華やかに咲き誇ります。野生のノハナショウブをもとに、江戸時代を中心に数多くの品種が育成され、現在 2000 以上あるといわれています。優美な花形としっとりとした風情が魅力で、色彩の魔術師とも呼ばれるように、花色の変化に富んでいます。アヤメやカキツバタに似ていますが、花弁のつけ根が黄色で、アヤメのような網目模様はなく、葉幅は狭く、葉脈がはっきりと隆起している点でカキツバタと区別できます。花形は、三英咲き(さんえいざき)と呼ばれる3枚の弁が大きく目立つものと、6枚の弁が広がる六英咲き(ろくえいざき)、そして八重咲きなどがあります。品種の育成地によって、江戸系、伊勢系、肥後系の 3 タイプに大別されますが、これらの交配種もあり、さらに、種間交配によって育成された黄花品種や、アメリカなど海外で育成された品種もあります。なお、端午の節句のショウブ湯に利用されるのは、サトイモ科のショウブ(Acorus 属)で、ハナショウブとは別の植物です。

50 年花菖蒲とともに菖蒲ジィこと八島信治良

栽培カレンダー

(新谷花菖蒲園基準)

日本花菖蒲協会登録品種　「大洲美人」

育て方のポイント

【栽培環境・日当たり・置き場】

菖蒲園などでは、修景効果のために開花期に水を張っていることが多いのですが、水生植物ではなく、周年株元が水につかるようなところはよくありません。日当たりを好み、極端に乾燥しないところであれば、あまり場所も選ばず、水辺に近いところから、一般の草花が育つ花壇まで、幅広く育てられます。蕾が出て開花する時期に一時的に水につかるのは問題ありません。

【水やり】

発蕾から開花中は十分な水分を必要とします。乾燥すると花がきれいに開かず、開いてもすぐにしぼんでしまいます。鉢植えでは、容器に水をためて、鉢ごと入れておくとよいでしょう。

【肥料】

秋の施肥は大切で、9 月から 10 月に株を太らせることで、翌年もよい花が咲きます。早春の芽出し肥、開花後のお礼肥も少量施しておくとなおよいでしょう。ただし、肥料の与えすぎは禁物です。

【病気と害虫】

病気:ほとんどありません。

害虫:ヨトウムシ、メイガ　　5 月から 6 月は特に注意が必要です。

【用土(鉢植え)】

一般の草花向け培養土が利用できます。植えつけのときは、肥料分が少ないほうがよく、しっかり根づいてから肥料を施します。

【植えつけ、 植え替え】

植えつけ:ポット苗であれば、春から初夏、秋に植えつけは可能です。株分け苗は、開花直後が最適期です。根茎が隠れる程度の深さに植え、新芽が伸びていく方向をよく確認して、植えつけの向きを決めます。

植え替え:連作を嫌うため、植えっぱなしにして数年たつと生育が衰えてきます。開花直後に株分けして植え替え、このときに土壌改良もしておきます。鉢植えは、毎年植え直しをするのがよいでしょう。

【ふやし方】

株分け:花が咲き終わるころ、または秋に株を分けます。花茎の部分は枯れてなくなるので、その横にある花の咲かなかった若い芽をつけて分けます。

タネまき:秋まき(とりまき)、または春まきで苗をふやすこともできます。タネをまいて 3 年目ぐらいに開花します。品種が混ざらないようにするには、花がらを早めに摘み取り、株元にタネが落ちないよう注意します。

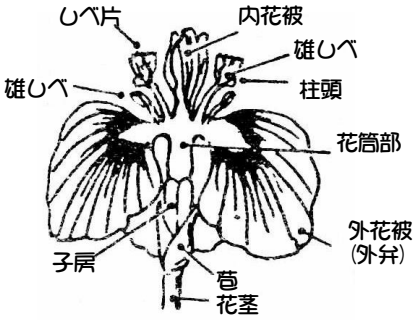
【主な作業】

定期的な植え替え、施肥、そして乾燥させないよう十分に水やりすることです。

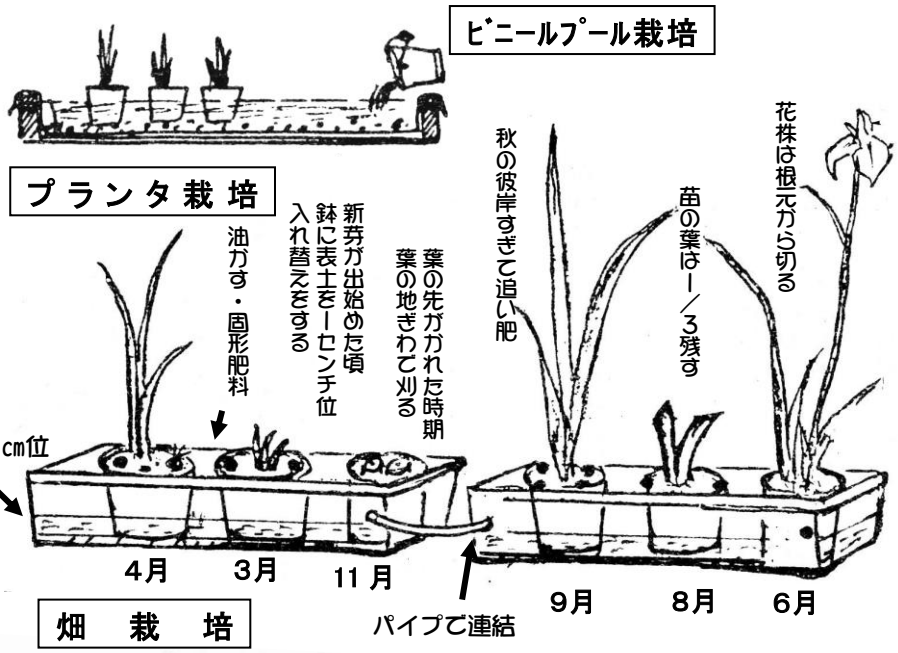
【お勧めします】

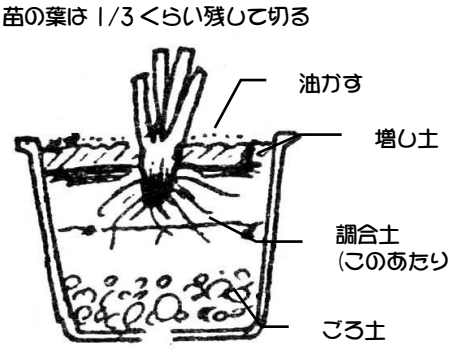
ハナショウブは初夏、梅雨の中でも、ひときわ華やかに咲き誇ります。優美な花形としっとりとした風情が魅力で、色彩の魔術師とも呼ばれるようです。ぜひあなたもお庭で、ベランダで花菖蒲を育ててみてください。

当園のホームページをぜひご覧ください

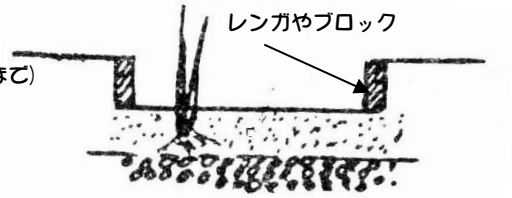


花の構造

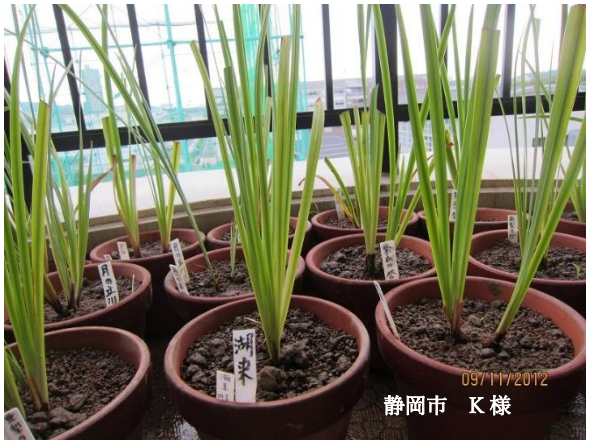




鉢栽培



ビニールプール栽培



畑栽培

花菖蒲の苗を全国宅配いたします
花菖蒲ネットショップ
mail: info@niiyairis.net
URL: http://www.niiyairis.net

新谷花菖蒲通販部
〒795-0073 愛媛県大洲市新谷町甲 3-1
TEL/FAX0893-25-6991